

今月の聖句

『その光は、まことの光で、  
世に来てすべての人を照らすのである。』

ヨハネによる福音書 第1章9節

◎12月の予定

2日(月) むかえようクリスマス(中)

4日(水)～23日(月) 時間割変更期間

12日(木) クリスマス礼拝  
教務委員会

13日(金) 子どもたちの祝会

14日(土) クリスマス祝会

16日(月) クリスマス祝会代休

20日(金) 給食終了

23日(月) 2学期終業礼拝・教職員協議会

◎1月の予定

6日(月) 教務委員会  
教職員協議会

7日(火) 3学期始業礼拝

8日(水) 給食開始

9日(木) 聖書教室

9日(木)・10日(金)

入学(小)・転入学願書受付(小・中)

14日(火)～16日(木) 体験学習②(中)



十月三〇日(水)～十一月一日(金)  
中学校は長崎へ、小学校は京都・奈良へ  
世界文化遺産から学ぶ二泊三日の修学  
旅行に行ってきました。  
また、十一月一日(金)に小・中遠足  
を実施しました。



小学校修学旅行



中学校修学旅行



小学校遠足



中学校遠足



◎今月の行事から

○むかえようクリスマス 2日(月)

降臨節の初めに、「御降誕の意味」  
をいま一度思う機会とし、よりよい準  
備の時を過ごすための一助とできれ  
ば幸いです。

○クリスマス礼拝 12日(木)

『海の見えるホール』にて、9時  
よりお献げします。是非、保護者の  
方々もご一緒にご参加ください。

○子どもたちの祝会 13日(金)

小・中の児童・生徒が、一生懸命練  
習をした劇を見せ合い、鑑賞する『子  
どもたちの祝会』 ステパノ学園の  
クリスマスにとって大切なひととき  
を過ごします。

○クリスマス祝会 14日(土)

今年度は、小学校が聖劇『クリスマ  
スのおはなし』、中学校がオリジナル  
創作劇『虹を渡る』です。児童・生徒・  
教職員・そして保護者の方々と一緒に  
御降誕をお祝いします。

○2学期終業礼拝 23日(月)

9時より『海の見えるホール』にて  
行われます。  
今学期も、ご協力  
ありがとうございました。



ウイリアムズ主教

「道を伝えて己を伝えずの人」

学園長 小川 正 夫

聖ステパノ学園はキリスト教日本聖公会関係学校の一員で、聖公会神学院、立教学院、立教女学院、立教英国学院、香蘭女学校、柳城学院、平安女学院、松陰女学院、八代学院、聖路加国際大学とは教会を通して兄弟姉妹の関係にあります。その中でも、小学校があるのは聖ステパノ学園（聖ステパノ）、立教学院（聖パウロ）、立教女学院（聖マーガレット）で、礼拝式文・聖歌集、つまりお祈りの本の内容は共通で、表紙の色だけ違い、聖ステパノ学園は緑色、立教小学校は濃紺色、立教女学院は赤色となっています。

これらの学校の働きの礎をおいてくださったのはアメリカ人、チャニング・ムーア・ウイリアムズ主教といってもよいでしょう。

聖公会関係の教会や学校で使うカレンダーや手帳には、十二月二日は日本聖公会初代主教ウイリアムズの日と書いてあります。

ウイリアムズ主教は米国ヴァージニア州リッチモンドで生まれ、神学校で学び、一八五九年三十一歳の時、プロテスタントの宣教師として来日した最初の宣教師でした。

明治時代に入る少し前、外国から多くの宣教師が日本にやって来ましたが、日本ではまだキリスト教の教えを広めることは認められていなかったもので多くの困難がありました。

やがて禁制が解かれ明治七年（一八七四）ウイリアムズ主教は、立教大学設立、三年後は、立教女学院を設立しています。

ウイリアムズ主教は生涯独身で自分の家も持たず、五十年もの間日本に滞在し、教会での宣教活動と学生の教育に生活の全てをかけ、生涯を神に捧げた人でした。

ウイリアムズ主教は立教学校の寄宿舎で生活していたので、食事の世話をする人がいましたが、いつも質素儉約して粗末な食事をしていました。賄いの人がたまには美味しい物を、お肉でもと勧めると、相変わらず、そんなものは買わなくてよいといって粗末な食材で作るように言われ、ほとほと「けちな主教」だと呆れ、賄いの人は「辞めさせてほしい」というと、ウイリアムズ主教は「そうですか、仕方ありませんが、ちょっと待っていてください」と言って戸棚から何かを取り出して「これはあなたのものです、どうぞもって行ってください」と言うので、賄いの人が見ると、それは自分名義でかなりの金額が記載されている貯金通帳でした。「私は貯金などしていませんが」というと、「私の言う通りに、あなたが食事を節約してくれた分を貯めたものですよ」という言葉を聞いて、賄いの人は泣き出してしまい、けちん坊主教などと言っていたことを恥じて謝り「もういちどこに置いて働かせてください」とお願いしたそうです。

食事だけでなく、身なりも節約しており、

寒い冬空に、何年も同じ黒の外套を着ていて日焼けして生地が茶色がかっていました。

当時は質の良いウールの外套などは裏返して縫い直して着ることがよくありましたので、周りの人が「主教さん、この外套、裏返しをして仕立て直してはいかがですか、きれいに見えますよ」というと、ウイリアムズ主教は、「実はこの外套、何年も前に裏返して仕立て直しているようです」という応えが返ってきて、古着屋で買い求めていた物のようです。

食事も身なりも質素儉約して、そのお金をどうしたかというと、金平糖を買って袋に入ればポケットに収めておいて、教会の日曜学校に來ている子ども達、来ていなくても街角で遊んでいる子ども達に配り、嬉しそうにしている子ども達を見て喜んでいたり、お金に困っている学生を見ては、これを上げるといようなことではなく、そっとお金をポケットに入れてあげたりしていました。

八十歳を超えた晩年、もう日本のお役に立てない、迷惑をかけたくないので帰国したいと二、三人の人にだけ伝えてそっと郷里米国のリッチモンドに帰りました。帰国して二年後一九〇二年十二月二日に亡くなりました。

ウイリアムズ主教を慕う多くの人たちが相談して寄付を集め、記念碑を創ろうということになり、感謝の言葉を石に刻んで、お墓のそばに建てました。最後に添えられた言葉には「道を伝えて、己を伝えず」の人であったと結んでありました。

教論 田中 圭史

私たちは年に何回か研修会に出かけていきます。研鑽を積む場として、また他の学校の先生方と交流を深める場とさせていただいています。一人ひとりが多忙ではありませんが、研修会に参加するよう勧めています。また校内研修会では外部講師を招いてお話を伺ったり、各教員が研修した内容を発表したりする場を設けてあります。

以前に書かせていただいたことにも関連しますが、私が研修委員となつてから心に掛けていることは『個人の学びを全体の学びにする』ということ。私たちが学ばなければならぬことは（今さら言うまでもないことですが）多岐にわたります。ですが、日々子どもたちに接する立場から、学校から離れた場で勉強する十分な時間をまとまって取ることも難しい状況もあります。とはいえ、既に学んだことでも、絶えずアップデートされなければなりません。

そのような境遇に置かれている身としては、「私たちの社会が既に先人たちの英知の上に成り立っているように、誰かの学びや経験をシェアして自らの経験とすることができるとは、一人で学ぶことと同じく、とても理に適っているはずだ」と思っています。こういう思いは常に心にありますから、私自身が研修

に参加すると共に、研修をした方からの報告にも興味・関心があります。

今学期は、校内研修会でユニバーサルデザイン教育の研修に参加された先生の報告をうかがいました。この研修会での講師の先生の『授業におけるユニバーサルデザインとは、発達障害の可能性がある子を含めて、すべての子が楽しく学び合い、「わかる・できる」ことを目指す、通常学級における授業づくりである。』という言葉に思わず頷きます。

一般には、特性のある子どもたちの学習環境を整えるために「黒板の周りをさつぱりときれいにする」とか、「授業の流れをパターン化する」、「指示する言葉を明確にする」、「プリントを用意する」とか言われています。しかし、その行為自体が目的になっていないかと問われます。否、『目の前の子にフィットするように教師が授業改善し続けること』が大切なのだ。本質から逸れ、スキルに頼りきり、偏つてしまう危険性を学びました。もちろんスキルも大切です。しかし、スキルが教師の一方的な押しつけになっていないか定期的に自己吟味する必要があります。私たち教師と授業を受ける子どもたちとの関係が双方向となり、子どもたちの学び方にフィットする授業、より質の高い授業が実現出来たらと願っています。私自身は、「より多くのスキルを身につける、そして思い込んで進んでいなか」と問いかけられました。

そしてもう一つ、『アセス』を使った研修の

報告をうかがいました。これは、大学や現職の小中学校の先生が中心となり開発されたアセスメントツールだそうで、学校環境適応感尺度 (ASSESS) と呼ばれるものです。今までも児童・生徒指導への手がかりとして、いろいろな手だてを取っていましたが、このアセスは他の先生たちも手ごたえを感じるものでした。

適応感とは、個人と環境との主観的な関係で、質問紙にはどのように感じているかを問う表現が見られました。「できる、できない」というのはつきりした表現ではなかったため、子どもたちも答えやすかったようです。このアセスは万能というのではなく、子どもの主観をもとに教師の客観的な観察を加えていくことで、より良い子どもの理解へと私たちに気づきを与えてくれます。そしてアンケート結果の報告のあと、クラスの子どもの傾向や置かれている状況などを話し合い、共有することができました。生活満足感や友人サポートといった共通の観点で深く話し合うことができました。このあとは、学校適応支援という観点からも進めていこうという思いが出てきました。

私個人では知ることのできなかつた知識や分野をこのように共有できるのは、とても素晴らしいことだと思います。一人のアンテナよりも、多くのアンテナを使い、これからも研修をより有意義なものにしたいと願っています。

# 学校を支える委員会

支援教育委員会の歩みと現在

中学校教頭 高橋 謙二

インクルーシブ教育という言葉が、国連で示されてから20年以上が過ぎました。私達聖ステパノ学園では、創立時からのその精神を受け継ぎ、教育活動を行ってきています。

20年前に現在の学園長が着任してまもなく学園内に支援教育委員会という組織が立ち上がりました。現在は、スクールカウンセラー・養護教諭・小・中3名の教職員計5人で組織されています。委員会の目的としては、支援を必要としている子ども達、また支援が必要とみられる子ども達に多角的・多面的な支援を行っています。実際に行われている活動としては、新入学生・転入学生に関しては、入学前に、スクールカウンセラーの支援相談を行い入学後の支援活動に活かしています。また、新学年の年度当初は全学年一人一人の一年間の個別支援計画を各学年担任にお願いをして作り上げ、一人一人またクラス(学年全体)のめあて(目標)などを教職員間で共有し、年度末にはめあてなどの成果の有無を確認して次年度に活かしています。

私達の支援教育はまずは、すべての子どもを同じ目線でみて、子ども達の様々な特性を分け隔てなく把握するところから支援を行うように心がけています。ただ、内部だけの考えや視点だけは偏りも出てしまう不安もあり、行き詰まってしまう時もあることから、年に3回、神奈川県教育センターの支援教育の先生方に様々な面での指導を受けています。また、講師を招いて、全教職員の研修の場も設けています。月に最低一回は支援委員で話し合い、児童・生徒の現状・課題を確認し、支援が必要な児童・生徒には、どのような支援の取り組み方が必要なのかを考え実行しています。必要であれば、授業なども参観して授業・学校生活改善などを教職員に促すこともしています。児童・生徒が、成長し、自分らしく家庭でも、学校でも、社会の中でも楽しく生活が出来るようお願い、今後も引き続き活動をしていきたいと思っています。

学園広報

教諭 上戸 基夫

私達の学校、聖ステパノ学園をもっとたくさんの方々を知って頂きたい。学園の広報活動は、その思いで活動を行っています。そして、その実現のために二つの思いをもって活動をしています。

一つ目は、「学園の姿勢」を知って頂きたいという思いです。聖ステパノ学園は、その創立の歩みから、子ども達の心の教育を大切にしています。ありのままにいられる個性の尊重、その時そのメンバーだからこそできる協力。子ども達が自分を活かし、そこから更に一歩成長していける学校として、聖ステパノ学園に携わる全ての者が、日々教育をおこなっている姿勢をお伝えする。それが大切な広報活動であると考えています。

二つ目の思いは、「子ども達の様子」を見て頂きたいという思いです。様子を知って頂く一番の方法は写真です。写真を通じて、子ども達の様子や活動の一瞬を切り取り伝えられます。出来るだけその写真を見て頂くだけで、活動がわかるもの、そして気持ち伝わるものを選びます。そのため、学園が広報で使用する写真は全て本校教員が撮影したものを使用しています。子ども達のすぐ近くで見ているからこそ伝えられるものがあると考えています。学習の様子だけではなく、本校が大切にしている各行事の写真など、学園らしい写真を選んでいきます。

三つ目の思いは、「学びの場を知って頂きたい」という思いです。大磯の駅前にある私達の学園は、自然環境にとっても恵まれています。敷地の中には、木の香り漂う小学校校舎と体育館が建っています。どちらも最近では珍しい木造校舎となっています。また、校内の岩崎山を登れば、森の中で学んでいるかのような中学校校舎。そして相模湾を望む学園のホールが建っています。聖ステパノ学園で学ぶ児童・生徒は、この学びの場を活かしながら学園生活を送り成長をしています。

## 礼拝

教諭 咲間 直人

聖ステパノ学園には教職員で構成された礼拝奉仕委員会というものがあります。その役割は教会暦に基づいた礼拝の準備、礼拝堂の管理、礼拝奉仕者への指導、教職員対象の聖書教室の実施等、キリスト教教育の全般にわたります。その中で最も重要なものが、毎朝の礼拝です。この礼拝の時間を守り、お献げしていくことはキリスト教教育の礎となるものです。

聖ステパノ学園の礼拝では式文を用いています。その内容は礼拝前の祈りから始まり、聖歌、懺悔、赦しと続きます。聖書のみ言葉にも耳を傾けます。これら全て神様と向き合うことです。そして、神様の前には子どもや大人関係なく、全員が平等です。普段は教職員と児童・生徒といった社会的な立場があります。しかし、礼拝において、そこは重要視されません。児童、生徒、教職員が一人の人間として一つの場所に集まり、共に同じ時間を過ごします。学校教育の場だからこそ礼拝中に注意をすることはありますが、本来礼拝中に誰かを注意することはあまり好ましいことではありません。数年ほど前に礼拝中にふざけてしまう児童に対して「礼拝中に注意はしたくない。一緒にお献げしたいから協力してほしい」と話したことがあります。その児童も今は中学生になっています。この出来事を覚えていくかどうかは分かりませんが、その子は現在、聖ステパノ学園の礼拝奉仕者（アコライト）として礼拝奉仕に携わっています。

私達は礼拝を通して神様と向き合い、その場にいる人たちと共に神様からの愛と恵みを再確認し、分かち合います。そして、そのことに感謝し、賛美します。それは他にはかえることのできない大切な時間であり、神様と向き合う（出会う）ことは、キリスト教教育の始まりです。それゆえ、礼拝はキリスト教教育の礎と言うことができます。まだまだ説明不足な部分ではありますが、ただの毎朝の習慣として終わらずに、日々神様によって新しくされている（生かされている）ということを感じて今日も礼拝をお献げできればと思います。

## ステパノ・ホーム代表者連絡会議

小学校教頭 長谷川 誠子

聖ステパノ学園は、エリザベス・サンダース・ホームに在園していた子どもたちが、小学校へ入学する際に建てられた学校です。

創立から長い間、ホームの子どもたちだけが通う学校でしたが、創立40周年の頃、外部からの児童、生徒も受け入れるようになりました。人数は少なくなりましたが、現在もエリザベス・サンダース・ホームで生活している児童、生徒が、聖ステパノ学園小学校・中学校で学んでいます。創設の経緯もあり、ホームと学園の繋がりは今も深いものとなっております。

ホームから通ってくる子どもたちの指導については、子どもたちと日々の生活を共にしている担当の指導員の方々と、連絡を取り合い、相談しながら進めています。月に一回、定期的にホームの理事長・施設長・指導員のリーダーの方々との連絡会も行っています。その会に、学園の方は、学園長・事務長・教頭・教員の代表者が出席しています。

連絡会では、ホーム、学園双方の行事予定や取り組みについての報告、また、ホームや学園での子ども達の様子などについて話し合われています。現状の子どもたちの状況を共有し、対応について検討していきます。

様々な事情のある子ども達への対応にあたっては、ホームと学園が信頼しあい、情報を共有して、子どもを深く理解する事が大切です。この連絡会がこのような役割をこれからも果たし、子ども達のより良い成長の一助となるような働きをしていきたいと考えます。

【小学校】六年生は、十月三十日から二泊三日で、奈良・京都へ修学旅行に行ってきました。修学旅行中の日記（しおりから）を紹介します。

【一日目】

今日から二泊三日の修学旅行です。新幹線に乗っている時に他の人とおやつを交かんして食べました。近鉄特急で奈良に行きました。奈良に行っているいろいろなおみやげを見たり、教会に行ったり、奈良公園に行きました。奈良公園に行つて、鹿にさわつて、鹿せんべいをあげました。その前に国宝館を見学しました。明日も楽しみです。

（小六 AK）

【二日目】

二条城と金閣寺と同志社大学と聖アグネス教会と銀閣寺の五つを見学しました。二日目は一日目より歩いたし、バスも長く乗つたので、今日も疲れましたが、三日目は、最後なので三日目もがんばります。

（小六 MM）

【三日目】

今日は、清水寺が中心でした。ブレザーまで着て暑かったですが、写真もいっぱい撮れて十分に見られました。とても人が多かったです。お土産もなんとか買えました。昼ごはんのおかべ家は噴水もあっていい店でした。

京都駅でお土産を買っている間に駅のピアノをひきました。満足できる演奏ができました。新幹線は、寝たかったけれど、あまり眠れませんでした。学校に帰ったとき、すごく安心しました。

（小六 KF）

**十一月一日（金）は、秋の遠足でした。小学校一年生から五年生までの縦割り班で行動しました。**

十一月一日に、八景島シーパラダイスにきました。

朝、五年生は、七時四十分ごろに集合しました。私は、班長でもなく、副班長でもなかったのですが、とても緊張しました。なぜかと言うと、今回の遠足は、自分たちが一番上の学年で班をまとめなければならぬからです。あと、班長さんが困っていたら、手助けもしたいと思っていたからです。

そして、七時五十分ほどの班も集まって、先生の話聞いて八時くらいにバスに乗りました。一号車には、一班から三班が乗り、二号車には、四班から六班が乗りました。

私はそのとき一号車に乗っていました。一号車に乗っている班長さん副班長さんたちとても上手に、バスレクをやっていました。



十時三十分くらいに到着しました。集合写真撮り、全員でイルカショーを見に行きました。それはとても面白くて、マジックがふしぎでした。「シーパラ超魔術団」という名前でした。ぬいぐるみのペンギンが本物のペンギンになったり、お客さんの男の子を寝かせて、支えている物をとると、まだ浮かんでいたり、とやっています。もちろんイルカショーもありました。マジックとイルカショーをかけ合わせたようなショーでした。ショーが終わったら、そこでお弁当を食べたり、おやつ交換をしたりしました。

それが終わったら、班の行動になりました。三班は、水そうのようなトンネルの中にあるエスカレーターにのったり、ペンギンを見たり、クリオネやエイ、アザラシ、レッサーパンドを見たりしました。

帰りは、バスレクはなかったのですが、おしゃべりをしたり、おやつを食べたり、楽しくバスに乗りました。

そして、学校に到着したら、校長先生のお話を聞いて、先生のお話を聞いて帰りました。

今回の遠足は、心に残る遠足でした。なぜなら、次は六年生になって、この時期は、修学旅行だからです。来年は、副班長、班長になりたいです。

（小五 MA）



## 「中学校」

歴史と祈りの地、長崎への修学旅行を終えて、中学三年生は被爆講話を聞かせて下さった田川さんに、お礼状をしたためました。一人ひとりが、深く考える機会を持つことができました。

田川さん

ぼくは、爆弾が落ちてしまつて人が死ぬのは、すごく悲しいことだと思ひました。また、そんな悲劇がおこらないように、自分たちが、どう行動し聞いた話を心に残すのかを考えないと、と思ひました。

田川さんから聞いた話を、自分たちがほかの若い世代に話すのは簡単です。でも、田川さんが話してくれたのは、まぎれもない事実で、自分たちが若い世代に話すのよりも、重みがあり、悲しみが伝わってくる。だからこそ、いろんな人に話を聞いてほしいし、田川さんが最後までやりきった、と思うまで続けてほしいです。

ありがとうございました。(中三 A S)

田川博康さまへ

先日は私たちに戦争の体験を話してください、本当にありがとうございました。私は、実際に戦争の話を生で聞いたことが今までにないので、田川さんのお話を聞いて、すごく貴重な時間で、心にとても重くつきささりました。



長崎原爆資料館を訪れた際、田川さんのお話を聞きました。涙をこらえて、聞き入る生徒の姿がありました。

戦争の時の事は、話したくないし、思い出したくない、とてもつらい思いだ、と田川さんが言っていたのを聞いて、私はこの時代にはまだ生まれていないから、本当のことは分からないですが、田川さんがどんなにつらい思いをしただろうと考えると、私もとてもつらくなりました。戦争は身のまわりのもの全部を一瞬でなくしてしまう。大切な人をなくすことは、どんなことよりも一番悲しくなります。

私は田川さんのお話を聞いて、自分の人生を一日一日大切に生きていかないとけない、と改めて思ひました。私は、自分に対して甘かった、と思ひました。変な言い方ですが、今、私はしあわせなんだから、自分らしく、戦争で亡くなられた方の分まで、しっかりと生きていかなければいけないと思ひました。(中三 S A)

## 連載「ステパノ散歩」—私の好きな場所—

新校舎

中学校の中庭を挟んで、「新校舎」という名前の少し古い建物と、「旧校舎」という古い建物がある。どちらが「新校舎」なのか、中3の二期期になるまで、僕には分からなかった。

僕の中には、どちらも同じくらい古く見えるからだ。「新」とはいつても、築二十五年くらいにはなるらしい。もしどちらが新校舎か分からなかったら、中1教室がある方、あるいは職員室がない方、と覚えればいいのかもれない。

名前は少し不思議だが、僕はこんな新校舎が好きだ。なぜかというと、新校舎には中1教室や理科室があつて、僕が中1の時、ずっと過ごしていた思い出の場所だからだ。森の中の教室と違い、新校舎は独立した空間で、他の学年の教室がないため、クラス内で仲を深めることができる。質素な印象はあるが、落ち着いて生活することができる。

三月には卒業。僕はこの学校を去る。新校舎といいながら、実はちよつと古い建物を、僕はずっと忘れないだろう。(中三 A S)

次回をお楽しみに。





二十代の先輩からのメッセージ(一)

ステパノを巣立つて高校も卒業した先輩達は、一体どんなことを思い、過ごしているのか聞いてみたいと思いませんか。ご協力をお願いしたところ、五人の先輩達がメッセージを寄せてくださいました。ステパノでの日々はすごく昔ではありませんが、十年が過ぎ「あの頃」を振り返ってくれました。子ども達にもぜひ読んでほしい心のこもった言葉を、今月から順にご紹介します。

まずは久保田成歩さん(男性)

ステパノ在籍期間は中学一年から三年まで。庶務の新庄主来さんと同期生です。

「今はどんなお仕事、または勉強をされていますか？」

「大学で教育学を勉強しています。教育学、心理学等を活用して企業で活躍することを当面の目標としています。」

「ステパノでの生活で印象に残っていることは何ですか？」

「三回の宿泊学習が最も記憶に残っています。毎年愛川で、調理実習やキャンプファイヤーを中心に、盛り沢山の二泊三日を過ごしまし

た。特に中三の時には縦割り班の班長になり、集団をまとめることの難しさ、面白さを経験しました。」

「あなたにとつて、ステパノとは？」

「児童と生徒と教員の距離が近いことです。

どの先生とも気軽に話す環境が常にあり、また同学年だけでなく、学年をまたいだ関係でも多くの思い出があります。特に学年内では、四人組と一緒に旅行の計画を立てたり遊びに行ったりという気の置けない仲が未だに続いています。」

「後輩へメッセージをお願いします！」

「(小)中学生という大切な期間をステパノで過ごしていることは大きな幸せです。今の人間関係というのは、お互いを深く知り、本気でぶつかりあった上に成り立っているものなのです。ですから、『今』を大切にしてください。そうすれば、かけがえのない一生ものの何かが残るでしょう。」

あと、たまに遊びに行くのでその時は仲良くしてください。」

久保田さんは「せっかくの機会だから来たかった。」とアンケートをわざわざ学校に持ってきて、後輩たちの運動会の練習を見ていてくれました。

次回もお楽しみに。

## STEPHEN'S NEWS

### ・実用英語技能検定

5級合格 中一 AN、AH  
中三 IN、YR

4級合格 中二 IM

3級合格 中三 KJ

### ・第53回神奈川県私立小学校陸上記録会

5年男子 100m走 第4位 KK

5年男子 走幅跳 第5位 HR

5年女子 800m走 第6位 AM

6年男子 800m走 第5位 OS

6年女子 800m走 第3位 FH

出場した児童全員が記録証を頂きました。

### ・第8回 神奈川県小学生混成競技教室で、

5名の児童が三種の競技の記録証を頂きました。

### 【編集後記】

降臨節に入り、礼拝でもクリスマススをむかえる歌を歌います。心静かに、と思いながらも何となく胸が躍る楽しみな時期。大人も子どもも同じですね。この場に生かされることを感謝して、ご一緒にクリスマスをお祝いしましょう。(た)



代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>  
二〇一九年十二月六日(金)発行 第238号